2024(第26回)全国中高等学生日本語学力競試大会

＜2次大会（スピーチコンテスト）発表原稿＞

高等部13名 / 中等部8名

社団法人 韓日協会

人とのつながり、そして、外国語を学ぶということ

고예서(高豫瑞、Ko Ye Seo)

こんにちは。私は、テジョンから来ましたゴ・イェソと申します。
本日は、私が「日本語を好きになったきっかけ」や、「外国語学習への思い」についてお話したいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。さて突然ですが、みなさんは、外国語を話すことは好きですか？「もちろん、好きだよ！」という方がもしいらっしゃいましたら、外国語に興味を持つきっかけになったものはありますか？たとえば、「好きなアーティストがきっかけ」という方や、なかには「留学や受験のタイミング」で学び始める方など、それぞれのきっかけがあるかと思います。私の場合は、大好きな日本のアニメキャラクターのセリフをマネしたり、インターネットで言葉の意味を調べたりしながら日本語を勉強したのが始まりです。そして、私の日本語学習のモチベーションを支えてくれた、もうひとつの大きなきっかけがあります。それは、私の兄の奥さんとの出会いです。その方は日本人で、韓国語は話せません。しかし、とても気さくで趣味も合うので、つい時間を忘れて何時間もおしゃべりしてしまいます。ときどき語彙力が足りなくて会話に詰まることもありますが、それでも、大好きなアニメの話やお互いの国の文化の話など、話す内容ひとつひとつが興味深く、飽きることがありません。もともと日本のアニメが好きで日本語を学び始めた私ですが、このことをきっかけに、「外国語で会話することの楽しさ」や「人と繋がることの喜び」にも目覚めていくようになりました。それから私は、外国人の友達をもっと作るために、「マウム」という会話学習アプリで、英語の練習をすることにしました。すると、韓国ドラマやk-popが好きなモロッコの女の子ととても会話が弾み、しかしまたそれと同時に、私が補助的に使っている翻訳ツールの致命的なデメリットも痛感しました。やはり、翻訳ツールは完璧ではないので、ときどき「誤訳」が生じてしまうのです。私はこうしたデメリットを経験し、「翻訳ツールに頼らずとも、もっとスムーズに会話できるようになれたら」と、心から思いました。このように、外国人とコミュニケーションをとるというのは、楽しいこともある反面、「もし会話が途切れてしまったらどうしよう」と不安になったり、「相手にとって失礼ではないだろうか」と心配になったりすることもあります。しかし、もともと内気だった私が、外国語学習によって人との繋がりを楽しめる私に変化していったように、言語の壁を超えたコミュニケーションの先には、きっとたくさんの「楽しいこと」が待っているはずです。私は、まだ将来自分が何者になりたいのかはよく分かりません。 だからこそ、「何者にでもなれる」という強みを活かして、これからも語学をがんばっていきたいと思います。
お話をきいてくださり、ありがとうございました。
これで、私のスピーチを終わります。

人生のパートナー

곽예빈(郭藝斌、Kwak Ye Bin)

慶熙(キョンヒ)女子高校１年生の곽예빈(クァク イェビン)と申します。
今日，私が日本語で家族以外の人の前に話す歴史的な瞬間に一緒にいてくれて本当にありがとうございます。
今から,私にとても親しい誰かを紹介しようと思います。 皆さんは名探偵コナンになって当ててみてください。
この人を私は「ムンちゃん」と呼んでします。「ムンちゃん」は夕方になるとソファーで銅像のように固く座っています。よく見ると居眠りしている様子なので「寝てんの？」と聞くと、自分は絶対に寝ていないと答えます。鼾をかいたくせに。
最近は肩が痛いと言って、服を着ったり脱ぐ時は何時もリズミカルな音楽のように‘アヤヤ～’という不思議な音を出します。
「ムンちゃん」は私が好きなものについては本人はあまり興味がなくても「何々、」と言いながら同じ話を何度も聞いてくれるし、“行きたいところがあるよ”と言ったら知らない場所でもインターネットで調べって一緒に行ってくれます。
でも、そこに行くとたまに “わぁ、ここにいつか来た気がする！ランデブーかな？“” と言います。
ランデブー。皆さんもご存じのように，「ムンちゃん」が言いたい言葉は一度も経験したことがないのに、すでにどこかで経験したことがあるように感じることを示すフランス語のデジャヴです。
「ムンちゃん」はランデブーだけでなく Wi-fi をブルートゥースと間違って言ったり、「それあるじゃないですか、それそれ」と言うことが多いので何かヒントのないクイズタイムになって本当に困っています
皆さん、「ムンちゃん」が誰なのか分かりますか？ お宅にもこんな方がいらっしゃいませんか？ はい。そうです。正解は私の母です。
実は「ムンちゃん」という呼び名は、 私が小さいころ、母の居眠りする姿も嫌だし、言葉を覚えないことも恥ずかしくて 「老いた犬みたい」という意味で呼んだ悪い呼び名です。
でも、 今は分かりましす。なぜ母はソファで居眠りしたり、肩や腰が痛くても歌のような声を出したり、何時も私には笑顔を見せてくれるのか。
皆さんのお母さんたちも「ムンちゃん」のように誰より早く起きて家事を始め、一日中働き、一番遅くまで家族を見守っていると思います。本人の体はあちこち痛くても 寝不足でも子供のために頑張っています。
今は母も「ムンちゃん」という呼び名が好きといいます。
私が辛い時も、怒っている時も、イライラしている時も
相変わらずしっぽを振って寄って来る子犬のように側にいてくれる母が大好きです。」

これまでの日本語、そしてこれからの日本語

구본영(具本瑛、Ku Bon Young)

皆さん、こんにちは。本日日本語のスピーチをいたします、ク・ボニョンと申します。どうぞよろしくお願いします。今回は、これまで私が日本語を学んできた経験と、これからの道のりについてお話ししていきたいと思います。

およそ３年前、私は大人たちとオンラインゲームをするのが趣味でした。そのグループの中には日本の早稲田大学に通っているお姉さんがいました。その時まで私は日本についてはまったくの無知でした。ですが、その人と関わってから半年ぐらいになったとき、ふと日本語を学んでみたいという気持ちが湧いてきました。それを機にすぐひらがなを覚え始めました。勉強のやり方もわからず、 適当なアプリを使ってひたすらに勉強しました。かな文字をすべて覚えると、また適当に単語集を買い、約５か月間読んで読み続けました。９月になってからはJLPTという日本語の試験を知り、JLPTの勉強に取り組むことになりました。それからいよいよJLPT N2の試験日、緊張した割に無事に成果を収め、結果は合格でした。人生初めての資格を取ったし、これまで勉強してきた努力を報いられたと思うと自分があまりにも誇らしく、勉強し続けられる力になりました。また、夢をくれました。

その夢は日本に留学することでしたが、高校1年生の１年間、私と両親が揉めました。費用面的でも、日本に持っている思いもあまりよくなかったので私に反対したのです。しかし、お互いに長い間話し合って両親には一切手を借りない限り留学を許してくれました。これを機にもっと勉強に励むことができたと思っています。

去年からは日本語の実力をより高めたいと思い、日本語のアクセントやイントネーションの勉強を始めました。 日本語をどれだけ深く勉強していたとしても抑揚、つまりイントネーションを気にして勉強していないと、どうしても外国人のようなぎこちない印象を与えてしまいがちだと思っていたからです。では、私はどうやって勉強したのでしょうか。まずNHKニュースをざっくり聞いて原稿を起こし、文字の上にイントネーションの波を描いて準備します。それからアナウンサの声の高低をよく聴いて真似します。すべてのリハーサル が終わったらスマホで自分の声を録音します。そして、ニュースと聞き比べながら自分のミスをはっきりします。このような作業を身につけることで、もっと自然な日本語がどんどん話せるようになると思います。

なぜこんなにイントネーションにこだわっていたのかというと、実は私の夢は日本の声優になることだったからなのです。とんでもない話なのかも知れませんが、諦めたくない夢です。声優は誰よりも正確な日本語を話せるため、いつも私の羨望の的でした。自分が一番好きな日本語をたくさん喋れる仕事である上に、人々に元気を与えられる、私にとっては正に夢のような素敵な仕事だったからです。どんなに多くの失敗があっても何回も立ち上がり、いつか必ず声優になりたいです。

以上で私のスピーチを終わります。ご清聴ありがとうございました。

「ちょっとゆっくり」とはいかがでしょうか。

김규담(金奎談、Kim Kyu Dam)

みなさんこんにちは。私はバンサン高校に在学している二年生のキム･ギュダムと申します。突然ですが、皆さんはもしかして、異文化に接した際、驚いたことはありませんでしょうか。私は本日、日本で一か月間語学研修をしていながら感じた異文化との違いについて私の個人的な思いをお述べさせていただきたいと思います。

海外旅行の際、日本では交通機関を利用して旅行すると大変便利だと思います。私もその経験のうち、一番驚いたことは、交通機関を利用するときの行動の違いでした。 日本に滞在している間、移動する際は交通機関をよく利用していました。ある日、私がバスに乗った時のことでした。その時、運転手さんは、必ず乗客がみんな座っているかどうかを確認してから発車させていました。それは経験したことのない思いやりでした。また、私がバスに乗ろうとしたとき、車椅子の乗客が待っていました。その乗客がバスに乗ろうとしたら、運転手さんが直接、車椅子の人がバスに乗り込むことができるように手伝いました。わあ、なんという、うつくしくて素晴らしい思いやりでしょうか。

私が住んでいる韓国では、例えば、人がバスに乗ったとたん扉を閉めて出発したり、まだ座っていないにもかかわらず出発してしまう運転手さんが沢山いて、ふらついた人々を見たこともありますし、実際に私も転んだことがあります。それで他の観点からみると、視覚障害を持っている方や体の不自由な方などが交通機関を利用する際、大変不便ではないか、とふっと思い浮かびました。

最近、私はいくつかの記事を読んだことがあります。その中の一つは、現在、韓国では挙動が不自由で車椅子の方のために車椅子用のリフトが出てくる低床バスを義務的に導入していますが、実際にこの装置は本当に必要な人たちにはそっぽを向かれているとのことでした。導入の趣旨はよかったですが、実際にはこの装置が故障しているバスがほとんどということでした。また、この記事では車椅子の方がバスに乗ろうとしたときにバスのリフトが歩道まで届かず、30分間バス4台に乗れないまま送ってしまいました。長い待ちの末、やっと乗ったバスもリフトが歩道まで届かず、2、3回後進と前進を繰り返して位置を再調整した後、再び出発するまで3分30秒かかりました。この過程があまりにも長いせいで、迅速を選好する乗客の誰が喜ぶのかという内容でした。

私はこの記事を読んでから、こんなに近い国にもかかわらず、些細な配慮から大きな違いがあることを気づきました。素早い運営はいいと思いますが 、私のように交通機関を利用するとき、何も不便なところがない場合にも、急な危険にさらされる場合があるのではないでしょうか。ところでお互いに配慮しあって少しはゆっくりを目指す社会になってほしいと思いました。したがって、異文化間において、このようなちがいと共にどうすればより良い環境を作ることができるかについて工夫が必要だと思いました。安全かつ配慮がある社会を構築するためには個人だけではなく、団体も一緒に努力すべきだと思います。例えば、バスの場合、個人は障害を持ってる方がバスを乗る際にゆっくりと待ったり、乗客が全員座ったことを確認した後、バスを発車させることなどがあります。また、団体は先ほど前述したような問題点を直すために徹底的に調査し、記事で指摘していた「きちんと作動しないリフト」を直そうとする努力をすることが必要です。これらを通して私たちはお互いを理解し尊重し、より良い未来を作っていくことができるでしょう。ご清聴ありがとうございました。

人間関係で大事なこと

김예진(金叡辰、Kim Ye Jin)

こんにちは。今日は私の考える人間関係で大事なことについて発表させていただきます。
私の考える人間関係で一番大事なことは、ポジティブなマインドです。
毎日沢山の人に紛れて暮らしてる現代人にとって人間関係というのは何よりも難しいし、悩みの多いことだと思います。何年か前に行われた調査によると、韓国の成人男女の半分以上は人間関係で疲労感を感じていると答えていました。ということで、多くの人が人間関係のことで困っているということが分かります。
私も何度か友達関係で悩んでいた経験がありますが、そのたび感じたのは、どうせ今の状況が変えられないなら、自分の考え方を変えるしかないということです。
中学2年生の時、理科の授業でグループ活動をしていたら、同じグループの友達と意見が違って少しケンカになったことがあります。最初はそのことでとても困っていたのですが、何日か時間が経って考え直してみたら、その子の考えが間違えたのではなく、自分とは違うだけでそれなりに凄く素敵な意見だったということが分かりました。これをきっかけとしてその子との関係もグループ活動の発表もとてもいい結果を出すことができました。
もしその時私が友達の意見を認めていなかったら、ずっとネガティブにしか考えていなかったら、最後のようないい結果には至らなかったでしょう。
このような経験は誰でもありますし、後の人生で何度も繰り返されると思いますが、そのたびさっきの話みたいにポジティブな考え方にするのができたらいいなと思います。
例えば今、皆さんの周りにあんまり気に入らない人がいるとしましょ。どうしてもその人と一緒にいるしかないなら、あの人やっぱり苦手だなと嫌なことばかり考えるよりは、自分とあんまり合わない人がいるから、自分とは違う人が周りにいるから、前は知らなかった何かが学べる大切な機会になるのではないかと、ポジティブな考え方にするのが大事だと思います。
人との関係って一人で作られるものじゃありません。相手がいるからこそ成り立つものです。だからどこかが気に入らなかったりしても、相手のことを大切に考え、なるべく優しい態度をとった方がいいでしょう。そうすると、相手と自分どちらもきっと幸せになれると信じています。
皆さんはこのフレーズを聞いたことがありますか。世界の中の自分は変えられないが、自分の中の世界は変えられる。人間関係を変えようとするよりは、私たちの心を磨くのはどうでしょうか。もしかしたら、優しい社会はこのポジティブなマインドから生まれるのではないでしょうか。
お聞きいただいてありがとうございました。

私が尊敬する人

김이안(金怡岸、Kim Yi An)

私はソウルクンモク女子高校二年生のキムイアンと申します。

私が尊敬する人は黒柳徹子さんです。黒柳徹子さんは日本の女優、タレント、テレビ司会者、エッセイストで、日本のテレビ放送史を代表する芸能人のひとりです。黒柳さんは幼少期の頃、授業中に机の蓋を開けたり、閉めたりしたり、教室の窓のところに立ってずっと外を見ていたりして先生から問題児とされました。それで、一年生の時に退学させられ、トモエ学園に転校することになります。このトモエ学園に通っていた頃に起きた出来事を書いた自叙伝が「窓ぎわのトットちゃん」です。私もこの作品を読んで黒柳さんのことを知りました。

トモエ学園は、廃車直前の電車を改造して作られた教室で、自分が座りたい席で勉強することができるし、子供たちが創意力と想像力を発揮できるようにする独特な教育方式を行っていました。初めてこの作品を読んだ時、これがすべてノンフィクションであることを知って驚きました。この作品の中で私が一番感動した部分は、校長である小林先生が黒柳さんに「君は、本当は、いい子なんだよ！」とおっしゃるところです。確かに、黒柳さんは、みんなに親切だったし、いいところもたくさんありましたが、先生たちがびっくりするような事件をいくつも起こしていました。それでも、小林先生は、黒柳さんが、トモエにいる間中、この言葉を言い続けてくれました。この一言が将来活躍する黒柳さんを作ってくれたのだと思います。黒柳さんは、東京大空襲をきっかけにトモエ学園を離れざるを得なくなりますが、そこでの思い出をちゃんと忘れずに、大人になって本に書いたのがすごいと思います。

「徹子の部屋」という番組は、黒柳さんが1976年から行っているトーク番組で、2015年に一万回放送というものすごい記録でギネスに登録され、今でも記録更新中です。トーク番組は、事前に台本を作って撮ることが多いですが、「徹子の部屋」には出演者の台本がありません。黒柳さんが事前に、する質問などをメモしておいて、それを見ながら進行する形になっています。私はこのことを知って、黒柳さんならではの信念や、出演者たちを思う気持ちを強く感じました。

そして、黒柳さんは芸能活動以外にも、社会福祉活動もしています。特に知られているのは、ユニセフ児童基金の親善大使としての活動です。黒柳さんは個人で基金活動を行っており、黒柳さんのもとへ寄せられた基金は事務費用などには一切使われず、全部子供たちのために使われているそうです。そして、大使としてアフリカなど色々な地域を訪問しました。でも内戦や、地雷などがあって危険なため、「なぜそこまでしていくのか、怖くはないのか」という質問に、「ユニセフ親善大使として少しでも皆様に知ってもらうのだからあまり大変とは思わない」と答えました。私はこのインタビューを見て本当にかっこいいと思いました。戦争を経験してきた人間でも、ここまで実行するのは、なかなか難しいことだと思います。そして、私も黒柳さんのように自分と同じような痛みを経験した人に共感して、助けることができる人になりたいと思います。

ご清聴、ありがとうございました！

運と努力、未来を楽しみに

김지안(金址晏、Kim Ji An)

皆さん、運というのは何でしょうか。運はどうやってくるのでしょうか。私は試験を控えて、結果はともかく、力を積み重ねる過程において自分に失望しないために最善を尽くしています。また、頑張った試験の後は運がありますようにと幸運を求めます。

そのようなある日、いつも通り結果に幸運がめぐってくるのを祈っていた時、運の存在について疑問を持ちました。「あれ？運って何だろう。まさか自分の努力が足りなかったから運に頼っているのではないのかな」と。疑問が疑問を呼んで、結局私は一生懸命勉強した試験の前の苦労も忘れて自己嫌悪に陥ってしまいました。ただ運が存在するかしないかという素朴な疑問から始まって、しまいには自己不信にまで陥ってしまったのです。この話を聞いた友人が私にこう言いました。「君、十分に頑張ったじゃない？もうこれ以上頑張れないから後は運任せでいいと思ったんじゃないの？」と。その時、寝る間も惜しんで勉強した過去を思い出して自分に悪いことをしたような気がしてきました。

考えてみれば、私は運に救われることだけを待っていたのではなく、自分なりに精一杯頑張ったから運も私のみかたになってくれたらいいのに、という気持だったのだと思います。そしてこれを機に運がいいとは何か、について深く考えるようになりました。

成功した人の多くは「運がよかった」とよく言いますね。又はうまくいった人々を見て「あの人はなんかいい加減なのに運だけは良いんだよな」と言う人も周りにけっこういるでしょう。でも、本当に運が良かっただけなのでしょうか。思いがけないチャンスが訪れたり、思っていた以上にいい結果が出たり、仕事がよく捗ることを天に任せることなどを運と言います。ですが、このすべての運は、自分を鍛えて初めて得られるものだと思います。そのためには、興味を持つだけでなく、まずは目標を設定して、どうしたらちゃんと目標までにたどりつけるのか、どうしたらチャンスが得られるのかなどを考えながら計画的に充実した毎日を過ごすことが大事だと思うのです。例えば、知識があるから正しい選択ができたとか、人間関係を大事にしてきたとか、ちょうどいいタイミングに動き出したというように、どのような状況でもこつこつと築き上げてきた日々の成果がいろいろな形の運を引き寄せて、目的を達成しやすくなるのではないでしょうか。他人からみたらそれらの結果はただ１００パーセントの運の力だと評価するかもしれませんが、本当は他人は知らない、もしかしたら自分さえ気づくことのできない無意識の努力の積み重ねが運に多く作用したのかもしれません。要するに、運は着実に実力を蓄えてきた人にだけ訪れるものだと思うのです。

もっとがんばっていれば運に頼らず、結果を確信することができたのでは、とも思ったんですが、人生とは思いもよらないことが起きたりするものですから、確信できるものは何もないと言っても過言ではないのではないでしょうか。それなら、一生懸命がんばった自分を信じて、運を信じて、未来を楽しみにしてわくわくした気持で生きるのはどうでしょう。

人たちはなぜ、任天堂に嵌まっているか

김희용(金羲勇、Kim Hui Yong)

皆さんは任天堂という名前を聞いたことがありますか。おそらく、韓国の方も日本の方も一度は聞いたことがあるとでしょう。任天堂は、ゲームやゲーム機を作る日本の代表的な企業です。私も今まで、任天堂と深い縁を結んできました。幼い頃、テレビで見たアニメ『ポケモン』を通じてゲームに関心を持ち始め,ポケモンのゲームをするためのゲーム機を調べながら任天堂という会社ーを知りました。私が初めて任天堂を知ったのはポケモンのおかげでしたが、マリオとゼルダの伝説、星のカービィなど、任天堂のゲームに接しながらどんどん任天堂の魅力にはまっていきました。

最近のゲーム業界を一見すると、ソニーのプレイステーションやマイクロソフトのエックスボックスのような家庭用ゲーム機はどんどん姿を消し、パソコンやモバイルゲームにそのシェアを奪われつつあります。その中で、唯一パソコンとモバイルゲームに負けず人気を維持しているのが任天堂ですが、その理由は任天堂だけの魅力にあると言われています。

その任天堂の魅力とは、任天堂を通じてしか得られない差別化された経験だと私は思います。プレイステーションとエックスボックスがパソコンとモバイルゲームに押されるのは、必ずしもそれでなければならない強みがないからです。パソコンは家庭用ゲーム機でできるゲームを同じように楽しむことができ、ゲームしかできない家庭用ゲーム機とは違って、様々な作業ができるという点で経済的に優れています。また、モバイルゲームはテレビの前に座ってするしかない家庭用ゲーム機とは異なり、どこでも手軽にゲームを楽しむことができます。このように家庭用ゲーム機はパソコンとモバイルゲームに勝るところがありません。それに反して、任天堂はポケモンやマリオ、ゼルダの伝説など、任天堂でしか楽しめない独自的なゲームを持っています。さらに、任天堂スイッチというゲーム機にはコントローラーを半分に分ける機能があり、家族や友達と一緒にゲームを楽しめるなど、任天堂を通じてしか得られない経験を提供します。

また、任天堂が多くの人に愛されるもう一つの理由は、任天堂のゲーム哲学にあります。最近のゲームは収益のために博打的な要素を入れたり、ずっと同じ形の陳腐なゲームを機械のように作り出し、ゲームの本質を忘れてしまったという批判を受けています。しかし、任天堂は常に新しい試みを図り斬新なゲームを作り上げ、彼らのゲームとゲーム機を連携して特別な経験を提供しようと努力しています。このようにゲームを通じて人々を楽しませるという変わらない任天堂の想いが多くの人々を熱狂させていると私は考えます。

最近、任天堂は任天堂スイッチに続いて、まもなく新しいゲーム機を発売すると発表しました。私は、これからも任天堂がどのような方法で私たちを驚かせてくれるか楽しみにしています。ご清聴ありがとうございます。

日曜日が変えてくれた人生

민보이(閔普異、Min Bo Yi)

私が子供の頃から両親は共働きをしていて、父は毎週の日曜日にしか家に帰ってきませんでした。自然と父より母と居る時間が長くなり父とはあまり親しくなれず、私は少し心の距離感がありました。このまま父とは親しくなれないのかと思っていたら、あるきっかけで仲良くなりました。そのきっかけは日本のアニメでした。ある日、母は「父と仲良くなった方がいいよ」と言って私をテレビを見ている父に行かせました。私は少し気まずかったのですが、父は私を気にせず日本のアニメを見ていました。自然と一緒にアニメを見ることになりました。そして父に「あの人は誰？」と聞きながらアニメに夢中になって見ました。やっと父と沢山喋れる機会ができました。しかし父が仕事に戻らなければならない時間になってしましました。その時、私は初めて父に「帰らないで」と言いました。父と母は驚いた顔で私を見ていましたが。それは出来ないよと言って父は仕事をしに帰りました。それから毎日、父が戻って来る日曜日が楽しみにしていました。

そして、お父さんが居ない時間でもアニメを見たりしました。アニメを見たら父ともっと話し合えるだろうと私はそう考えたのです。私は楽しくアニメを見ながら父を待ちました。そしていよいよ日曜日になりました。父の隣でアニメを見ながらはしゃぐ私を見て父はびっくりしました。だが、その後すぐに笑いながら父も私一緒に楽しくアニメを見ました。その時間はかけがえのないものですごく記憶に残る時間でした。そういう日々が続き中学生になった私はもう父と話す為ではなく、ただ自分が好きでアニメを見るようになりました。アニメを見れば見るほど日本の文化に驚き、もっと日本の文化について知りたくなりました。そして日本の文化を知るにために日本語の勉強の必要性を感じ、私はアニメだけじゃなく日本のドラマやミュージカルなどを見ることにしました。最初はこれが本当に勉強になるのかと心配していましたが、ドラマやミュージカルを見て自然と日本語を話せたり聞き取れるようになりました。そして、韓国とはまた違う日本の歴史や日本人の生き方を知ることができ、私は日本について学ぶ事が楽しいと気づきました。そこで私は思ったのです。もっと間近で学びたい！日本の大学に行って勉強したい！と、初めは父との会話の為だった日本のアニメが今では私の目標を決めてくれたのです。恐らく、私があの時父とアニメを見ていなければ、自分でアニメを見ようとしなければ、私は今ここにいなかったと思います。

長い時間ご清聴頂きありがとうございました。

日本語で探していく自分

이재훈(李在訓、Lee Jae Hoon)

長い髪形、メガネ、マスクは私のアイデンティティーであります。もちろん、それ以外にも特徴はありますが、私にとってどうしても欠かせない一番のアイデンティティーは、「日本語」です。

中学時代の話をすると、背が低いし、友達ともあまり関わりがない子でした。そんな私の唯一興味を持っていたアニメは、外の世界へ繋ぐ架け橋となり、段々と友達やコミュニティに認めてもらいたい欲求が湧き上がって、いわゆる承認欲求を持つようになりました。これを満たす為に、あの頃の私はアニメ風の「絵」を描き始めました。「私はアニメがこんなに好きなんだ」を表現するみたいな感じです。

私が「日本語」自体に興味を持ったのは、1か月間、フィリピンに語学研修に行ったのがきっかけです。英語と日本語の辞書が入っている電子辞書に、日本語の単語などを検索しながら、日本語をひとりで学んだのです。これを伝えたら母は、「英語学びに行ったはずだよね？！」と、あっけにとられたみたいに言っていました。まぁ、最近も英語より日本語の方に集中していて、学校でも、日本語の記事を翻訳したりするのですが、担任の先生も同じように「日本語やる時間に英語やっていたら最高やけどなぁ」と言われたこともあります。

いつの間にか私は学校で「日本人」と呼ばれていました。「えーと誰だっけ…」「日本人の先輩おるやん」「あーあの先輩かー」って感じで認識されているみたいです…。最初は馬鹿にしているのかと悩んだことはありましたが、今は何とも思っていません。むしろ、そのおかげで自分が「日本語が喋れる」ということも認識できて、もっと日本語勉強に熱中することになったのです。だからこそ、私が今ここに立っているのではないかと思います。

「好きなことばっかやって、どう食っていくつもり？」「君ができることを探すのだよ。好きなことじゃなくて」こう言われるのも、たぶん当たり前だと思います。昔には将来を気にしなかった、ただの子供だったこともあって、今まで好きなことしか頑張ったことがない私を見れば、いつでも突っ込まれるところでいっぱいですよね。ですが、私にとって日本語、好きなことでもありますが、今私にできることでもあります。今確かなことは、日本語は、私のアイデンティティーを探していく過程は、私を動かせる原動力になるということです。その原動力に基づいてゆっくり進めたら、いつかは何かが見えるでしょう。これは決して未来をむやみに手放すつもりではありません。皆さんが持っているアイデンティティーが、役に立つ道しるべになるかもしれませんからね。

手紙がなくなった

정보선(鄭普先、Jeong Bo Seon)

小さい絵で飾れた黒板、丁寧な贈り物、何より、学生からの丹念な手紙。韓国の教師の日といえばよく思い浮かぶものだろう。毎年お決まりのイベントだとはいえ、クラスメートと協力して日常の感謝を伝えることはやはり学校生活に大切な思い出である。
しかし、今年の教師の日はいつもと全然違う日だった。
手紙を集めて先生に差し上げよう。小学生のころと変わらない計画だった。わざと文を書くのをいやがる子もいるが、私は"わざと"手で書いてこそすなおな心が現れると思う。相手を考えて似合いのペンと紙を選び、話を整え、文字一つ一つ丁寧に書き進める。その苦労が相手への真心になるのだ。なので本音を伝えるときは時間をかけて手紙で書いてきた。忙しい学校生活のなかで、ありがたい人に手紙を送るのは小さな幸せであった。
次の日、手紙がなくなった。数多い手紙のなかで私のだけがなくなった。委員長は、遅くなる前にまた書いてくれ、といった。それはとんでもなかった。私にとって作文とはそう簡単に書けることではなかった。どう考えても十分ほどでは何も伝えられない、と思ったら頭の中が真っ白になった。めまいが出て字も書けなかった。書かなければ、という強迫が身を押さえてきた。
先生が教室に入り、盛大なお祝いが始まった。恨める人もいないのに、すなおな笑顔に傷付くのは初めてだった。拍手のおとが、どしゃ降り雨のように聞こえた。みんな笑って喋っているうちに、私だけ小さい紙にくっついて無気力なまま。その乖離がもう耐えられなかった。教室から抜け出し、保険室へ走り込んだときはもはや涙まみれだった。迷惑だと知りながらしどろもどろ底を割るしかできなかった。全身がふるえるほどおお泣きしたのはとても久しかった。
心を伝えることは、なにもかも投げ捨てて泣くほど辛いことだ。きっと先生はこれより何倍も深い愛情を生徒たちに注いできたのだろう。十七年も生きてきたが、胸を痛めながらそれについて考えてみたことはなかった。感謝とはいえ、毎年やってくるからといって適当に過ごしてきた。なのにその底には言い表せないほどの意味があった。
また手紙が書きたくなった。早いか遅いかとは関係なく、今までもらった恩に必ず報いるべきだった。私という人間を脳で覚え、心で思え、口と手で励ましてくれた努力は決して空しいことではなかったと証明する。その一念で手紙を最後まで書き終えた。
幸、先生は喜んでくれた。二度書いたから二倍丹念に読もう、と言われたときは私にもまた笑みができた。言葉一つで笑顔を取り戻すなんて、やはり教師という職業には不思議な力があるな、と思った。
その日のことで一つ、悟ったことがある。本音を伝えるのは涙が出るほど苦しい。だがその苦しみと戦い続けたら、私も息を吸うように心を動かす人になれるだろう。

友達より大事なこと

천민주(千旼主、Chun Min Ju)

皆さん、おはようございます。皆さんは中学の卒業式の日を覚えていますか。私は自分の卒業式の日を振り返ってみると、たくさん泣いた記憶しかありません。この話を聞くと、皆さんはおそらくこう言うでしょう。「友達のこと、本当に好きだったんですね。」でも違います。私が泣いたのは友達と別れたからではありませんでした。どこか寂しかったからです。

不思議なことに、私は中学校３年生になると同時に、親しい友達と全員疎遠になりました。特別な葛藤や喧嘩があったわけではなく、ただそうなってしまったという感じでした。私は幼い頃から長年付き合いをしたよく‘幼馴染’と呼ばれる親友がいました。小さい時ずっと一緒にいて、一度たりとも関係が気まずくなったことがありませんでした。しかし、時間が経つにつれてその友達とも疎遠になり、私は初めて完全に一人になりました。

私は今まで少数の友達と一緒に過ごしたことはあっても、完全に一人になるのは初めてで、とても混乱しました。みんながそうであるように、その時の私にとって友達は本当に大切な存在だったからです。でもすぐ心を整え直しました。もう新しい学年になったので、また新しい友達を作ればいいと思ったのです。たとえ一人でも構わないから親友がいて欲しい、と思いましたが、その一人を見つけることも決して簡単ではないと気づきました。

自分なりにたくさん頑張りました。クラスの子たちと友達になるために、本当はあまりしたくないことなのに真似してみたり、会話に入るために努力しました。なのにいくら頑張っても私が居場所はないように見えました。一緒にいても一緒にいないような感じがしました。結局、修学旅行も諦めて、本当の友達は一人もできないまま卒業が近づいてきました。周りを見たら私だけ一人のようでした。他の子たちが別れの悲しみに涙を流す時、私だけ傍に誰もいないような寂しさに泣きました。多くの友達と一緒にいる子たちが羨ましかったんです。私はただ親友一人だけを望んだだけなのに、なぜそれがこんなに難しいことなのか、あの子たちは絶対分かれやしないだろうと思いました。

もう私は高校生になりました。高校に入ってからは本当の友達に出会えたかというと、残念ながら違います。しかし、今の私はとても幸せです。昔の私は友達がいないということは有り得ないと思っていました。でも今は必ずそうでもないと思います。友達を作るためだけに私が好きじゃないとこをして、自分自信を失うようなら、そこまで関係に執着せずに生きるのもいいと思いました。私はもう一人で立っている方法を分かります。内面の寂しさとも向き合えます。私はもうこれ以上友達を付き合うために自分を変えるようなことはしません。一人でいながら一人でも全てを成し遂げられる心の力を育てました。

友達を付き合うのが悪いって言ってるわけではありません。私が伝えたいのは、ただそういう友達がいないとしても、大変なことにならないということです。他の誰かの支持なしで一人で立つ方法を知ることもとても大事だと思います。もしここに昔の私のような方がいらっしゃるのなら、自分を辛くしてまで関係を気にする必要はないって、言ってあげたいです。ご清聴ありがとうございました。

心から叶えたい夢

한지예(韓ジイェ、Han Ji Ye)

私が日本語の勉強を始めた小学校の頃から、周りから「大人になったら韓国と日本の対立、あなたが解決して。」とよく言われました。
そのせいで、幼い頃から私には韓国と日本の関係を改善させる義務があると思うようになってしまいました。
なので日本の人と交流することができる機会があったら、いつも当たり前に参加しました。
私が韓国と日本の対立を解決しなければならないと思ってきたからです。
まだ学生なのに、持つ必要のない責任感を持ってしまいました。
韓国と日本の対立を解決するためには政治、歴史的な問題の解決が何よりも早く図られるべきだと思っていました。
従って、日本の高校生との交流会に参加した時、それに関しての話をすべきだと思っていました。
ですが、日本の高校生にその話をしようとしたら、「もし喧嘩になったらどうしよう？」、「意見が異なったら？」、「意見が煮詰まらなかったら？」などが心配になって、何も話せなかったです。
義務感だけで、日本と韓国が仲良くなってほしいと心から思った時もなかったので、早く諦めてしまうことは当然な結果でした。
その時、私は何の成果も得られないなら、交流会を楽しむことでもしようと思い、日本の高校生との交流に楽しく参加しました。
ただ楽しんでいたら、いつの間にか私は日本の人を日本の人ではなく、人として向き合っていました。
それにきづくと、韓国の人と日本の人が憎み合っている状況をとても悲しいことだと思うようになりました。
韓国の人ととても似ている、みんな優しい人達なのに。
その時、義務感であった韓国と日本の対立を解決するという目標は、心から叶えたいと思う夢となりました。
友達と喧嘩した時、仲直りしたいと思うようになるのは、その人と親しいだからだと思います。
韓国と日本も仲良くなるためには、まず親しくなる必要があると思います。
お互いに好感を持っていない状態で、一番難しい問題から解決しようとすることは、とても難しいことだと思います。
今の私はお互いに好感を持てるようにすることが何よりも早く図られるべきだと思います。
韓国と日本の関係のために私にできることは何があるかなといつも思っています。
私はまだ学生で、交流会を開催することみたいなことはできません。
ですが、私は学生であるから、未来の韓国を引っ張ていく優秀な学生たちが周りにたくさんいます。
私は私の経験を伝うことで、日本の人に対しての認識を変えていきたいと思います。
とても難しいことですが、諦めないで頑張りたいと思います。ご清聴ありがとうございます。

日本語の方言

권하은(權昰恩、Kwon Ha Eun)

皆さん、こんにちは？私は 仁川 南東中学校３年生の권하은と申します。

私は日本語の勉強をし始めてまもない頃、日本語の方言に接したことがありました。ある日本のバラエティー番組で、濃いギャルメイクをした関西の女性の方が話の途中、「アカン、それはアカン。」と叫んでいるシーンを見たのです。そのイントネーション、そして雰囲気から荒っぽい印象を受けました。初めて接した日本の方言でしたが、何だか言葉づかいが強く、ぎこちないと思われて、日本の方言は全部こんな感じかなと思いました。

後から日本語の方言にはもっとたくさんのイントネーションがあって、どのような状況でどんな口調を使って話すのかによって、可愛いく、親しみやすいイメージに聞こえることもあるとわかりました。そのきっかけは、福岡に住んでいる友だちが、思わず口にした「なんしよん?」という方言でした。それは″なにしてる″という意味で、福岡弁で″なにしようと″と言われるのですが、これを略して″なんしよん″と言うみたいです。とてもかわいくて柔らかい感じで、特有の＇ん＇がたくさん入っているなまりがすっかり気に入ってしまい、私はたちまち福岡弁にはまってしまいました。それから日本の友達に聞いたり、調べてみたりしながら「だから」という意味の「やけん」や、「いいよ」という意味の「いいばい」のような表現も学び、最近はその友達と福岡弁で話しています。他にも、最初は標準語で喋ったつもりでしたが、知らず知らずに福岡弁で話してしまい、自分も後から気づいて笑ったこともあります。このように、福岡弁に慣れていくうちに、日本の方言には強い感じの言葉だけがあるわけではないということを知りました。

最近は新たに関西弁を覚えるようになって、魅力的だということに、気づきました。初めて関西弁を接した時は、話し手の外見や態度などの特徴で、方言自体にやや拒否感がありました。もし友達や好きな芸能人、あるいは普段コミュニケーションを取っている人から関西弁を初めて聞いていたとしたら、やはり福岡弁のようにまた違った魅力を感じたはずです。

もし私が福岡弁を知らなかったら、日本の方言はただ荒々しいとばかり思っていたかもたかも知れません。福岡弁に馴染んでいく内に、方言が持っている独特な魅力と、その方言を共有することで感じる絆が分かるようになって、もっと日本語に関心を持って他の地域の方言も知りたくなりました。それから、ものを判断するとき、第一印象で見て聞くことが全てではないということもわかりました。これから新しいものと出会う時、一面だけに限ったり、偏らず、もっと関心を持って調べていくべきだと思いました。今度のスピーチの準備自体が、もう一度私の考えを整理し、成長できる機会にしていただきました。先生方々と皆さんに深く感謝しています。

ご清聴ありがとうございました！おうきに！

夢に向かう道

김규민(金奎旼、Kim Kyu Min)

こんにちは私は蔚山ヨンアム中学校2年生のきむぎゅみんと申します。
皆さんは今、どんな素敵な夢を持っていますか?
私は今、いろんな夢を持っています。
以前は飼育士だったんですが、日本のアニメを見たり、また音楽などを聞いたりしながら、だんだん日本に興味を持つことになりました。9歳の時、私は初めて日本のアニメを見て世界にこんな言語があるんだなぁと思いました。アニメの主題歌を覚えて歌ったり、主人公のセリフを真似しているうちに日本語にハマりました。13歳の時、本格的に日本語の本を買って日本語の勉強を始め、今でも続けて頑張っています。なぜ日本語を勉強していますかと聞かれたら、私はこう答えます。英語より日本語の方がもっと面白いだけではなく、素敵に聞こえるからです。
以前には聞き取れなかった言葉がちゃんと聞こえた時、私が感じる喜びやその達成感は私があきらめず日本語の勉強を続けられる力になります。
私は今、日本の大学に留学することを目指しています。なぜ日本までいきたいかというと現地に行って直接その国の教育を経験して、現地の人に会って交流したいからです。

最近日本には韓流ブームが来ているらしいです。例えばアイドル、ドラマ、食べ物、ファッションなどでブームになっています。この中で、今日本で流行っているEYE LOVE YOUという韓国のドラマがあります。これを基にして今日本では韓国人の彼氏を希望したり、自分が韓国人であってほしいという話がよく聞こえてます。そして、東京の新大久保や大阪のつるはしにコリアタウンがあり、韓国料理専門店や韓国食品のスーパーなどがたくさんできています。なので韓国語を学びたい日本人もたくさんいると思います。
それで私の最終目標は韓国に興味を持っている日本人向けに楽しく韓国語や韓国の文化などを教えてあげることです。
この夢を叶えるためには何をすべきか考えてみました。私はマウムという全世界の人たちと話せるアプリケーションを通じて日本人の友達を作りました。現地の人と話しながらその国で流行ってる言葉とか、方言を教わって地元の人のように話せるようになりたいです。

外国語を学ぶ時、「難しいんじゃないかな？」という不安もあると思いますが、まずは一歩踏み出してください。私の場合もそのような経験があったから言えます。
皆さんもやりたいことがあればひとまず始めてください。そしてそれを楽しんで、あきらめないでください。それが自分を表現する一つの手段になり、特技にもなって、未来の仕事につながるからです。皆さんも素敵な夢に向かってその夢が叶いますように応援しています。
今までお聞きくださってありがとうございました。

日本の部活が活発な理由

김진솔(金眞率、Kim Jin Sol)

はじめまして。ホゲ中学校3年生に進学しているキムジンソルと申します。皆様は学校と言えば何が思い出しますか？　先生？　友達？　体育祭？

色んな意見が出ると思いますが、私は学校と言えばやはり部活じゃないかと思います。小學校の頃、私は日本のドラマやアニメを見るのが好きでした。その中で学校を基にした作品を見るといつも、生徒たちが放課後学校に残って部活と言うサークル活動をしながら時間を過ごせるシーンが登場してました。　進路や目標が同じ生徒たちが集まって、夢に近くなるため一生懸命がんばる姿、そこで積み重なる絆は私にとってとてもかっこよく見えました。そして＇中学校や高校に行ったら私もあんな部活ができるだろう。＇、＇私はギターが得意だから音楽部に入ってみようかなー＇ってのロマンができました。

しかし、中学に進学して私の幻想はぼろぼろになりました。入りたかった音楽部は存在もせず、学校にあった大体のサークルがこれといった活動をしていなかったのです。活動って言っても２週に2回、義務的に含まれた部活時間にだけ暇潰しとあまり変わらない活動をしているばっかでした。私はこの現実に大きく失望したんですが、同時に＇なぜ日本の部活はそんな活発な運営ができるのか＇という疑問ができました。

色んな資料を調べた結果、その答えは各国の教育観の違いにありました。
まず韓国の入試制度は試験の成績を中心に評価しますので学校生活の中、部活の比重が大きい必要がありません。だから韓国で部活はただ奉仕時間を満たせるための効率手段にしかなれないのです。

反面日本は、韓国とは異なる教育観を持っていました。1980年代から日本では＇生徒たちのもっと多様な能力を評価しよう＇という認識が確立し、入学制度に部活が包含されました。文武両道、学問と武芸に優れるってことをいいます。日本のカリキュラムはこれを基盤に定着し、その結果大体の生徒たちが活動に参与する活発な部活文化が形成できたのです。

また日本の部活には顧問と呼ばれる担当教師がいます。顧問は担当部活分野の専門家じゃなくてもなれます。しかし、顧問は顧問自信も部活のため勉強と訓練をしながら生徒たちを指導します。驚く点は顧問がこの活動についた何の手当ても受けないということです。学生自分が望む自分の姿に成長できるように教師としての責任感とやりがいだけで献身するのです。
私は韓国の部活文化も日本に倣ってもっと積極的と活発に運営される必要があると思います。入試制度から変えなくてもいいです。生徒たちの未来を思う学校と教師からの心があれば、それだけで生徒たちには学校生活が自分の進路を発見し、その力量を育てる土台に感じられるのです。韓国の学生たちも学校生活という舞台で自分の未来を思いっきり描いていけるようになって立派な人材に成長していく望みと一緒に、ここで減らします。聞いてくださってまことにありがとうございました。

日本語にプレゼントしてもらったこと

박윤정(朴潤正、Park Yoon Jeong)

こんにちは。本日、私は日本語にプレゼントしてもらったことについてお話しようと思います。
当時、小学生であった私は皆とは違って素朴な夢一つさえありませんでした。周りの友達は警察とか画家とかそれなりの夢を持っていましたが、私には関係のない話でした。ところが、小学校4年生の夏休みのある日、偶然〈溺れるナイフ〉という日本の映画を見るようになりました。思い出してみると、蓋然性には乏しいところもあった気がしますが、映画自体の雰囲気とかOSTはとても気に入りましたので、何度も巻き戻して聞いたり、漫画まで買って読んだりした記憶があります。この映画は、ヒロインが田舎に行って禁止された海で男子主人公に会うことを皮切りに、さまざまな事件が起こりながら、お互いにどんどん恋に落ちていくシーンが描かれています。映画のシーンごとに登場する日本の風景がとても美しく、この映画をとても気に入ったため、俳優たちのセリフ一つ一つさえ美しく聞こえました。この映画をきっかけに、日本という国そのものに興味を持ち、日本の音楽を聴いたりアニメーションを見たりするうちに、完全に日本にハマるようになりました。小学校5年生の頃には、自分で日本語を勉強してみたいと思って、スタディープランナーや基礎日本語の本を買って勉強計画を立て、一生懸命勉強したことを思い出します。そして本格的な日本語の勉強は中学校1年生から始まりました。中1の時にJLPTという試験を初めて知り、JLPT N4を目標にして勉強を始めました。友達にJLPTを勉強していることを話すと、皆から「かっこいいね」と褒めてもらえることが嬉しかったし、自分で何かを頑張って勉強することに誇りを感じました。そして、頑張って勉強したJLPT試験に合格した瞬間から、日本語は私にとって大きな意味を持つようになりました。初めて自分で立てた目標を達成した成功体験は、言葉では表現できないほど嬉しかったです。学校で自分の長所について発表する時、日本語を習う前の自分だったら何も言えなかったでしょうが、今の私は自信を持って話せるようになりました。
日本語を勉強する短い時間の中で、日本語は私に大きな影響を与えました。おかげで外交官になりたいという夢を持つようになり、以前はあまり知らなかった漢字も、今では周りより多く知っているようになりました。日本語を学ばなければ楽しめなかったはずの面白いコンテンツを楽しめるようになり、日本の友達や日本語を勉強している他国の友達とも仲良くなり、世界への視野が広がった気がします。このように、私が日本語から得たものは素敵な経験と夢でした。この場に立つことができて、本当に感謝しています。今はやりたいことがなくても、さまざまな経験を積みながら自分に意味のあることを探していけば、いつかきっと本気でやりたいことが見つかると思います。
ご清聴ありがとうございました。

幸せで平凡な夢

이나윤(李奈允、Lee Na Yoon)

こんにちは。 私は本日発表させていただいた、イナユンと申します。

本日は夢をテーマにしてスピーチをしたいと思います。よろしくお願いいたします。

世の中って当たり前なことに夢というものを要求してきます。私の周りからもどんな夢を持ってるのかと聞かれ、私はこう答えました。「幸せで平凡な日常を暮らすのが私の夢です。」

そして周りから返ってきた返事はこれでした。 「そんなのは夢じゃないよ。」 私の夢に誰ひとり「凄いね」と言ってくれませんでした。 学校で聞いた「夢はなんですか。」の用紙の答案欄は心が通じる友達と付き合ったり、週末には家族と一緒に旅行に行ったり、かっこいい人に片思いしたり、見上げた空の青さに惚れたりする、幸せで平凡な日常を夢として認めてくれませんでした。みんなとんでもない話だと言いました。そしてその時、私は気づきました。「夢を聞くのはどういう大学に進学するのとか、どういう職業に就くのとかの事だな。」 「本当に私がしたいことには誰も興味ないのだな。」 こうやって私は世間から見て「夢のない人」になりました。 自分なりの夢があっても夢がないと答えなければなりませんでした。 私の夢には名高い大学の名前も、高い給料をもらえる職業もありませんでしたからです。人にとっての夢と私にとっての夢は全然違いました。皆自分ではなく、ただの学校名に気にしているように見えました。

いつの間にか夢がないと言うのにも疲れた私は仕方なく夢を作り出しました。「私の夢は東京大学を卒業してUN事務総長になるのです。」 正直に言えば、どちらも本心ではありません。東京大学どころか、何年間留学する勇気もありませんし、UN事務総長どころか、何かに関して責任を取る仕事はなるべく避けたいです。私の大きな夢を聞いたある人は笑って、ある人は「凄いね」と言ってくれました。けれど一つ、もう誰もいい大学に進学したいし、いい職業に就きたいと言う私に問題があるとは言いませんでした。これが世の中の言った「夢」なのでしょう。

結局私がここで一番申し上げたいのは、私たちは自分も知らないうちに人の夢をとても簡単に無視するということです。「夢」は実現したい希望や理想です。そしてもちろん、実現したい希望や理想は人それぞれです。私は幸せで平凡な日常を夢見るのがとてもイイです。夢を見る時、幸せだなと思います。名高い大学や職業ではなくても、自分が叶えたいと思えばそれで充分ではないでしょうか。

本日私のスピーチが皆さんにとって自分の本当の夢に関して考えられる機会になればなと思います。

聞いてくださり、誠にありがとうございました。
以上、イナユンでした。

楽しかった山口県

임지민(任志珉、Lim Ji Min)

皆さん、こんにちは。初めまして。私はイム・ジミンと申します。今日話したい話題は私が日本の山口県に行った時の話をしたいと思います。それでは、聞いてください。
私は今から約2年前日本の山口県に行きました。え？東京、大阪じゃなくて山口なのって聞くかもしれません。でも、私は日本の山口県に行きました。なぜなら、韓国人があまりいない自然が豊かな場所に行きたかったです。それで、私が住んでるぶ釜山から近い山口県を選びました。
日本に行く1ヶ月前からドキドキしました。コロナ以降で初めて行く日本旅行だったのです。そして、大好きな日本に行くと考えただけで胸が熱くなって寝れなかったです。
やっと出発する日が来ました。釜山港から下関港までの旅です。夜にみた釜山港はとても美しでした。次の日の朝下関港に着きました。朝早くから旅行が始まりました。まずは唐戸市場に行きました。唐戸市場ではお寿司を買いました。近くの公園で食べようとした瞬間雨が降りました。雨が降っていましたが、そのような環境で食べる新鮮なお寿司は本当に美味しかったです。雨音と共に感じる特別な雰囲気あは忘れられない経験でした。
食べ終わった後には近くの街を歩きました。あれ、遠くから大きい神社が見えて来ました。それは、赤間神宮でした。中に入ったら赤色と白色の組み合わせがとても綺麗でした。中は静かで平穏な雰囲気でした。神社の中を全部見た後には関門トンネルを渡りました渡ってからは福岡の門司が見えて来ました。渡ってから見える門司の公園はと子供たちが遊んでいる穏やかな場所でした。そこで子供たちの笑い声を聞いていたら心が落ち着きすごく癒されました。その後お腹が空いて店を探しました。小さな店が見えました。そこに入りました。そこはおじいちゃんが1人でやってる小さな店でした。店の中では、おじいちゃんたちとおばあちゃんたちがいました。注文をしてからそこにおばあちゃんと話しました。最初の質問は何もない山口県になんで来たのって言われました。そこに私は答えました。ほんとに富護しかないですねって言った瞬間、店の中の人はみんな笑いました。それから日本と韓国の文化違い、韓ドラの話、私がどうやって日本語を勉強したのかについて話しました。おばあちゃんとおじいちゃんとしゃべったのは初めてだったので新鮮でした。そこでおしゃべりをしていたらいつの間にか夜になって水の中とバイバイをしてホテルに戻りました1日山口で過ごした時間は本当に特別でした。自然と歴史同時に楽しめることができた。この旅行は忘れられない経験になりました。山口の美しさと魅力にはまってしまいました。大人になったらまた山口に行きたいです。皆さんも機会があれば山口県に行くのはいかがでしょうか？以上で今日の発表を終わらせます。聞いてくれてありがとうございます。

私の夢は人を助ける看護師です。

조성훈(趙成訓、Cho Sung Hoon)

こんにちは、私は全羅南道の小さい都市に住んでいる中学校2年生のチョソンフンです。今から私の夢というタイトルで発表を始めます。

私は幼い頃から肌と鼻の病気のため、たびたび病院に通うようになり、病院に勤めている方々に会うことが多かったです。この経験は私が仕事を決める大きなきっかけになりました。病院に通っていた私を丁寧に世話をしてくれた看護師の方々を尊敬するようになって小学校6年生の時には看護師という夢を持つようになりました。

昨年末、私は学校で私の夢について発表したことがありました。その時、看護師という仕事をもう少し詳しく調べていると産業看護師という仕事があることを知りました。この仕事を見て私は夢をもっと具体化することに決めました、なぜなら、韓国や日本のように高齢化が進んでいる国では、病院だけでなく、家庭や老人ホームのような環境でも緊急な状況が起ったり、医療関係者の助けが必要な場合がより多く発生したりすると思ったからです。また、最近韓国では法律と制度が改正され看護師の権限がより大きくなり、看護師の地位が高まって看護師がより多くの人を様々な分野で助けることができるようになったことも私がもっと看護師になりたいと思った理由です。

そのあと、私は夢についてよりリアルな情報を得るために、学校の活動プログラムに参加して実際に看護師の仕事をする方に直接会ってみたりもしました。その時会った看護師の方が「ある仕事をしようとする時はロールモデルを決めてその人のようになれるようがんばれなければならない」という話をして下さり、看護、保健についての質問に答えてくれました。これらを通じて看護師は患者の生活に役立ち、健康を回復させる過程で患者との感情的なコミュニケーションもちながら相手が心穏やかに過ごせるよう親切に接することが重要だと感じました。私は看護師と関連した人たちの資料を調べながら世界100人の中の一人であるナイチンゲールをロールモデルに決めるようになりました。私もナイチンゲールのように誰かの模範になり、見習うべき者として前向きに生きていかなければならないという誓いまでするようになりました。

最後に私のバケットリストの１つはは海外に出て医療のボランティアをすることです。看護師として積み上げてきた専門的な技術とノウハウで治療を受けられずに苦しんでいる人々を治療したいからです。 特にアフリカで環境と病気に苦しんでいる人々を助けて、さらに人々の心まで治してあげることが私の究極的なゴールです。今後、私の夢をかなえるうえで困難なこともあると思いますが、ウォルト·ディズニーの「夢をかなえようとする勇気さえあれば、すべての夢をかなえることができる」という言葉のように、夢に向かってベストをつくし、堂々と前に進んでいきます。

最後まで聴いてくださってありがとうございました。

未来平和の為な友情感

최승아(崔勝姮 、Choi Seung Ah)

こんにちは私はムンサン中学校3年生최승아と申します。どうぞよろしくお願いします。
私が用意した主題は友情です今から友情についた私の考え事を発表させていただきます。
まず私たちの年頃に一番大切な物とはなんだと思いますか？
もちろん家族や成績も大事ですでも私はこう思います、10代生徒たちに何よりも大切なのは友人関係だと。国内で友達を作るのはよくあることですね。私はそれもいいんだと思いますが最近の時代は世界各国の交流が大事にされてるんです。だから外国の友達を作ってみることもいい経験じゃないかと思います。大人達は色々と世界の交流と平和を為努力しています。じゃあ、私たちがやるべき事はなんでしょうか私はその疑問から始めてこの文を作成しました。未成年の私たちに交流や平和とか言われたらまず何をするべきか悩むことが多いますが実はそんなに難しいことではありません。私たちが外国のお友達を作ることだけでもそれは交流になります。私の場合学校のみんなとはあんまり仲良くなれなかったんです。だからネットで友達を作ることが多くありました。ネットは世界の色んな人と繋がるのに最適です私はそこで日本人のお友達を付き合いました。友達とメッセージをしながら相手の国に気になったことを聞いたり文化を沢山習ったんです。しかも韓国と日本の間にある先入見を捨てることも出来ました。私が日本人の友達と話すことだけでも交流になったと思います。場合によっては国内の友達より外国の友達がもっと気が合う時もあります。実に私がそうでした。日本の文化が大好きだったことを誰も理解してくれなかったのにネットで会った日本人の友達とは日本の文化を自由に話すのが出来たんです。そうやったら私はふと強い友情を感じました。友情は国、性別、年頃に限らなくても出来ることをその時気づいたんです。先言った通り私たちだけではなく大人達もそんな努力をやっています。例えば2023年に韓国と日本の関係進展の為にサミットをやったことがありました。もちろんそれは友情ではなく平和の為ですがこれもかなり深い関係があるんだと思いました。私の話を片付けると私たち10代生徒たちの友情感は未来の平和を持ち込むと言うのです。私はより多い大人、学生どっちでも色んな人々と繋がって欲しいんです。それでは発表を終わりにして貰います。
聞いてくれてありがとうございます。
以上ムンサン中学校の최승아でした。